

あなたとつくる。
大切な命を育む家



風の森建築

CO-CREATION



共に考え共に創る

自由に柔軟な家づくり

私たちは、お客さまとの「共同創造」という理念をもとに、家づくりをしています。

お客さまと共に考え、共に工夫を凝らし、共に夢を叶えていく。

風の森建築は小さな会社。だからこそ、考える人（設計）と、造る人（大工や職人、専門業者）、判断する人（経営）の距離が近く、お客さまの様々なご要望に対して柔軟に対応しています。

長年にわたる自社施工の経験、豊かな発想や知恵が、私たちの財産です。それによって家づくりの自由度が高まり、お客さまの夢を、理に適う形で実現することを目指しています。

ご希望の間取り、使いたい素材や設備など何でもご要望に応じますが、それぞれのメリット、デメリットを見極め、コストバランスを重視しながら、お客さまの暮らしに最適な住まいをご提案いたします。



安心で安全な 心地良い住宅を

構造材には一切合板を使わずに基本的に国産の無垢の木と漆喰や和紙などを使用して家を造っています。

暮らす人にとって安全な家とは、つくる人にとって安全な素材でつくられた家です。家づくりを共にする誰もが安心して安全であること、家の周囲の自然環境に負荷をかけないことを心がけています。

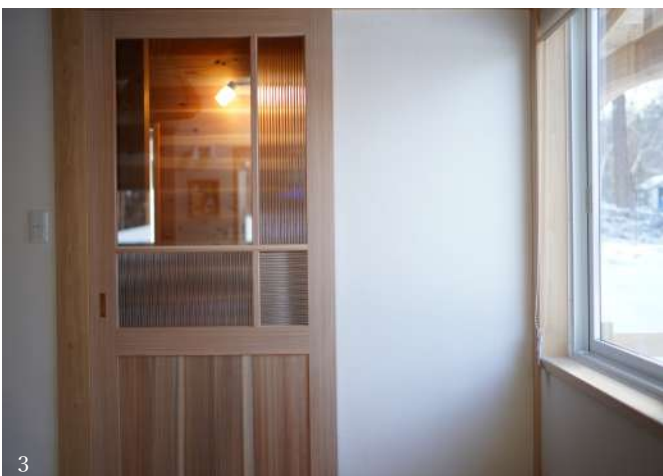
ときに敷地を守っていた樹木を柱や梁として使うことや、製材して乾燥させ、テールなどの家具としてお届けすることもあります。

無垢の柱や床に触れた時の感触、本物の素材だけが持つ匂いや空気感。

ときが経つにつれて劣化していくのではなく、使い込むことで味わい深くなる家。心も体も生き生きと暮らせる、そんな心地良い住宅を提案したいと考えています。



素材へのこだわり



1 丸太の赤松はこの土地にあったもの。丸太を使うことで柱を減らし開放感を出しています。
2 畳は国産のイグサを仕様。壁紙は土佐和紙。襖は壁紙と同じく土佐和紙仕上げに。柔らかい空間に。
3 建具は国産杉材を使用し壁は漆喰仕上げ。窓枠には檜材を使用。いい素材はいい調和を生み出す。



つくり 構造と技術

あえて手間のかかる手仕事にこだわり続ける

住

住宅性能としては、第一に
「冬暖かく夏に涼しい家」
を心がけています。

住宅自体の断熱性能はもちろんですが、土地の環境に合わせて日射の取り入れ方や遮り方を工夫し、軒の出し方を計算して決めていきます。

そして「透湿」という室内で発生した水蒸気などを、壁や天井を通して自然に屋外に排出できるように素材を選定します。

構

造造（建物の骨組み）のプランを考える際は、伝統的な「手刻み」とコンピュータ入りで機械加工される「プレカット」を、ご予算と工期など、お客さまのご要望に合わせて選択していただきます。大きな空間を必要とする場合には、プレカットと手刻みの丸太を組み合わせることも可能です。

私たちが得意とする手刻みの手法は、折り返し組（渡あご工法）を基本に毎回プランによって様々な工夫をこらしています。伝統的な継手はとて強度があり、経年変化

でさらに仕口（木と木の繋ぎ目）が強固になります。

丸太を使うことで可能な「大空間」も私たちの家づくりの得意技のひとつです。広々としたリビングはもちろん、車庫などの間口を広くとりたいたいときにも有効で、その自然な丸太の曲線は何ともいえない美しさがあります。

材

の特長を見極め、丁寧に加工された木架構は、無駄のない洗練されたデザインになり古くから残る民家のように力強く、時に繊細で美しい、見る者を飽きさせません。

私たちがあえて手間のかかる手仕事にこだわり続けるのは、お客様の笑顔を見たいから。そして、手を入れ、進化させながら100年200年と、家を使い続けていただきたいからです。





人と人がつくる

「出会えてよかった」と

思っていたただけるように。

家づくりは、一生に何度も経験するものではありません。

私たちにとっては、年間に携われる棟数は限られています。

それぞれにとって貴重な時間や体験を共有し、共に創り上げて行く一大事業。

そんな家づくりを大切なご縁として活かしたく思っています。

長持ちさせるために手を入れたり、暮らし方の変化に合わせてつくり直したり。風の森の職人はもちろんのこと、協力会社さんとも一生のお付き合いとなるでしょう。



私たちは、お客さまの家の庭造りや草刈り、ストーブの煙突掃除やメンテナンスなど、様々なご要望にも出来る限りお応えし、お客さまの暮らしをサポートいたします。

私たちは、お客さまの家の庭づくりや草刈り、ストーブの煙突掃除やメンテナンス、またお客さま自身で行えるように、チェンソーや刈払機、薪割り機など機械のアドバイスや使い方をお伝えすることもあり、様々なご要望にも出来る限りお応えし、お客さまの暮らしをサポートいたします。

お客さまに「出会えてよかった」と思っていただけのように。それが私たちの願いです。





風の森の家づくり





弊社の住宅は、木造建築の中の「軸組構法」という工法で、「柱」と

横架材の「梁・桁」で軸組を構成する架構法です。一般的に設計自由度が高く、増改築を行いやすい工法です。その軸組工法の中でも、手刻みの場合は金物を用いるべく使わずに仕口や継手で木組みを行う伝統構法「折置き組」を採用し、毎回プランによって工夫し粘り強い構造体としています。さらに、丸太を使うことで大開口を取りたい車庫や広いリビングなどの大空間が作れます。使用する丸太梁や太鼓梁は、元々敷地で育っていた樹木や弊社で保管している丸太を職人が「本」本手斧（ちょうな）をかけて仕上げます。

構造 技術



主な継手・仕口の種類

- 腰掛蟻継 主に土台や横架材の継手
- 腰掛鎌継 主に土台や横架材の継手
- 追掛大栓継 主に横架材の継手
- 金輪継 主に横架材や柱の継手
- 大入蟻掛け 主に土台の仕口
- 平ほぞ差し 一般的なほぞ仕口
- 重ねほぞ 交差した2本を差し通した二段ほぞ仕口
- 込み栓打ち ほぞ差しの抜けを防止、緊結するために打ち込む堅木で作られた木栓。弊社では主にケヤキの角栓を使用。
- 楔 ほぞ差しの仕口などを固定するために打ち込む鋭角の三角形をした堅木の小片。
- 折置き組 昔の民家で使われた伝統的な組み方の一つです。直行する梁を渡あごと言う仕口で段違いに重ね、視覚的に立体感のある空間ができます。





家づくりにおいて透湿性能は大切な要素と考え、ほとんど通気をしない構造用合板は使用していません。弊社の考え方として、人が呼吸するのと同じように家全体が呼吸できる家を目指しています。室内で発生した汚れた

透湿性能

空気や湿気を強制的に機械で換気するのではなく、自然素材が持つ調湿性能を活かす事で、同じ木材でも透湿をしない合板は、家の呼吸に反して気密状態となり体に負担をかけてしまいます。また、合板の耐震性能は20年と言われている、「時期が来たら張り替える」という事ができません。このような事から、壁耐力には構造用合板ではなく筋交いを、屋根の下地には野地合板ではなく杉の粗板を張ります。



「冬暖かく夏に涼しい家」を心がけており、寒冷地であっても体に負担がかからないような過ごしやすい室内温度を保てる断熱性能を確保しています。四季のある日本は季節によって気候がガラリと変わるため、家に求められる性能は一つではありません。夏は外からの熱を遮断しつつ室内の熱を逃し、冬は日射を取り入れて室内の熱を逃さない。断熱性能は、快適な住まいを実現するために最も大切な性能です。

断熱性能



躯体



基礎

基礎の仕様はベタ基礎とし、基礎断熱をしています。寒冷地での施工の場合、基礎を凍結深度以深まで掘り下げるため、床下空間を埋め戻さないことで床下空間の高さを確保できます。また、基礎断熱仕様なので床下空間の温度を一定に保つ事ができます。

構造材・下地材

構造材は集成材ではなく国産無垢材です。土台と柱はヒノキの120mm角材、梁は主にスギを使用します。間柱や筋交いなど、最終的に壁の中に隠れてしまう下地材料も国産無垢材を使用します。施工中も家の中は木の香りに包まれます。

柱



土台

下地材



断熱材

ポリエステル断熱材

保温性や機能性、使いやすさを持ち合わせたポリエステル繊維系断熱材を使用しています。吸水性が低く、透水性や速乾性に優れた断熱材で、結露しにくい素材です。有害な化学物質を使用せずに製造しており、触ってもチクチクせず、環境と人、住む人や施工者にとって優しい断熱材です。中でも弊社で使用している断熱材は、壁内結露を抑制できるように湿気を移動させることができる、水と湿気に強い製品です。防露性能計算により防湿層を省略しています。

押出法ポリスチレンフォーム断熱材

水や結露に強いプラスチック系断熱材の一種です。人と地球に優しい、ノンフロン・ノンホルムアルデヒド製品です。主に基礎断熱で使用します。





無垢の木は調湿性、吸臭性、遠赤外線効果など、様々な性能を持ち合わせており、日本の風土に適した素材です。無垢材だからこそ感じられる「木」本来の香りや艶・感触は、住む人に

無垢の木は調湿性、吸臭性、遠赤外線効果など、様々な性能を持ち合わせており、日本の風土に適した素材です。無垢材だからこそ感じられる「木」本来の香りや艶・感触は、住む人に

無垢材 国産材

とって心地よい空間を作ってくれます。国産材にこだわるのは、日本の森を元気にしたいという思いからでもあります。日本は国土の約2/3が森林であるにもかかわらず、建築業界で使用される木材の多くが輸入した外材です。国産材と外国産材は風合いが異なり、実際に暮らしてみるとその違いが、肌感覚でわかるようになります。

日本の山は重機が入りづらく伐採には人の力が必要になってきます。少量多品種の供給が多く、大手が望む大ロットでの流通ができません。需要が少なくなっているので、ウッドショックを契機に、国産材の使用が増え、日本の山に少しでもこの循環が反映されることを願っています。



太陽の光や熱、風などの

「自然の恵」を取り入れた設計を心がけています。

庇や軒の出は室内に入る日射をコントロー

パッシブデザイン

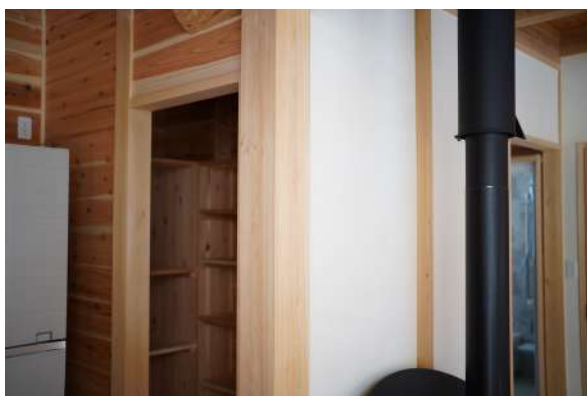
ルするように計算して決めたり、風の通り道を考えて窓の大きさや配置をプランニングしています。特に寒冷地では冬の日射を上手に使うことが大切になります。間取りによってはどうしても壁が必要になるところもあります。日射目的以外にも八ヶ岳の自然豊かな景色を楽しめる、明るい室内になるように心がけています。



【木材】

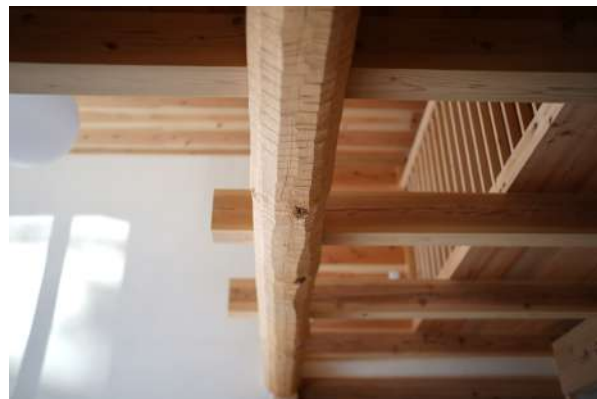
杉

- 国内で代表的な樹種で、木目は真っ直ぐで柔らかく加工しやすい
- 構造材から造作材、外部内部問わず、あらゆる部材に使用できる万能木材
- 特有の芳香を持ち、消臭効果が高い
- 価格帯は、安価な板から高級材まで幅広い
- 本州、四国、九州と、国内に広く分布し供給源が豊富



檜

- 木目は通直で狂いが少なく、乾燥性、加工性、耐湿耐水性に優れ、保存性が高い
- 現在一般に建築用材として使われているヒノキはほとんどが人工林のもの
- 天然林のヒノキは厳密に区分され、価格が全く異なる
- 木肌はきめが細かく、仕上げ次第で美しい光沢がでて、特有の芳香を持つ



赤松

(地松)

- ヤニを多く含み、材面に滲み出ることがある
- 通直な材が少ないため、曲がった状態で丸太梁などに使用する
- 国産針葉樹の中で曲げ強さはダントツで、横架材に適する
- マツクイムシによる被害で生産量は年々減少し、稀少材となって

木の等級

無節



節が全くない最高級品

上小節



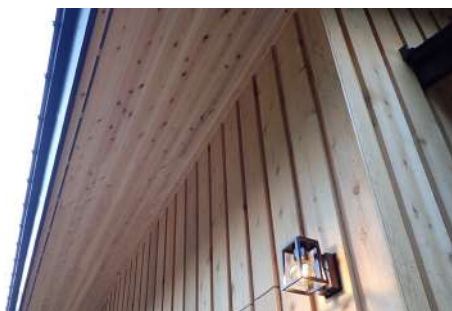
直径1cm程度以下の節が2,3個点在している高級品

等・一等



大小の節があるもの

軒裏



軒天板



垂木現し

屋根・軒

屋根はガルバリウム鋼板で仕上げ、3寸～5寸勾配とする事が多いです。冬の積雪に備えて雪止め金物も取り付けます。横葺き・縦葺きなど、葺き方によって印象も変わります。また、軒は日本の住宅にとってなくてはならない存在です。四季がある日本では、雨風から外壁を守り、日差しのコントロールができる、家を長持ちさせる重要な役割の一つを担っています。仕上げ方は様々あり、軒裏は、屋根下地の目隠し且つ保護として軒天板を張ったり、屋根下地の「垂木」を現しにした仕上げがあります。軒先は、垂木を保護する破風・鼻隠しを無垢板ままの仕上げ、又は屋根同材の鋼板巻き仕上げ、あるいは「小舞」という納め方で垂木の木口現しとする仕上げがあります。



軒先

破風鼻隠し 現し



破風鼻隠し 鋼板仕上げ



小舞



外壁

板張りや漆喰仕上げがあります。板張りでは、板の種類によって張り方は様々です。外周りの壁は大壁仕様を主としていますが、ご要望に応じて構造材現しの真壁仕様も可能です。

横張り

相決り板



ドイツ下見板



鏡張り



縦張り

羽目板張り押縁打ち



大和張り



造作材・造作家具

敷居、鴨居、窓枠などの化粧枠、巾木、廻り縁などの見切り材は、主に国産ヒノキの無節材を使用しています。本物の木肌はとても綺麗で、既製品にはない贅沢な仕上がりです。日焼けや経年変化で味わいが出てきます。造作家具には無垢板幅はぎ材（パネル）の長良スギやヒノキ、広葉樹を使用します。無塗装又はオイルで仕上げます。

造作家具

キッチン



内装

造作家具

クローゼット



造作家具

トイレ棚

窓枠



巾木



洗面所



キッチン・棚



デッキ

デッキには水に強い国産の檜材を使用しています。お子さんでも安心して素足で遊び回れるように何も塗らない、もしくは塗るとしても有害な防腐剤ではなく、水質・土壌汚染をしない天然由来の木材防護保持材のウッドロング・エコを塗装しています。



建具

建具にはスギ板やヒノキ板の無垢板を使用します。既製品ではなく、1枚1枚、建具屋さんが採寸～製作～取付まで行います。デザインガラスやステンドグラスを入れたり、オーダーメイドの建具を作る事ができます。



サッシ

主に樹脂サッシまたはアルミ樹脂複合サッシを使用します。Low-Eガラスアルゴンガス入りを基本とし、ご要望に合わせてペアガラス又はトリプルガラス、メーカー・グレードを選定いたします。価格は上がりますが木製サッシや木枠をつくりガラスをはめ込むこともあり、ステンドグラスをはめ込むことも可能です。



床仕上げ

床材は主に30ミリ厚の無垢板の杉または檜のフローリングを使用しています。ご希望により広葉樹のフローリングを使用することも可能です。和室の畳は基本的に国産無農薬のイグサを使用した畳（60ミリ厚）を使用しています。こちらもご希望によっては汚れを拭き取れたりメンテナンスがしやすい面和紙畳の使用も可能です。



天井仕上げ

基本仕様としては天井の懐は作らず、構造材の骨組み現しとしています。上階の床板が下階の天井となる「床現し」、最上階の天井は屋根下地の「垂木現し」や「天井張り（平天井、勾配天井）」が主な仕様となります。また仕上げ方は様々あり、板張りではスギやサワラ、ヒノキなど、左官仕上げは漆喰や珪藻土、土佐和紙を貼ることもあります。

床現し天井

垂木現し天井

天井張り



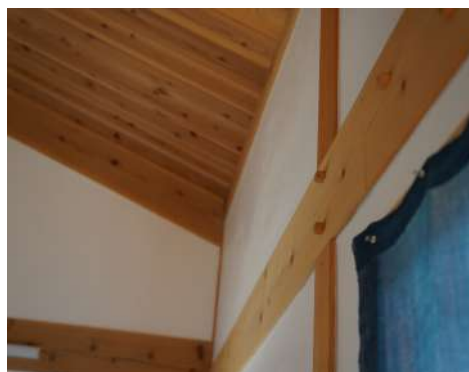
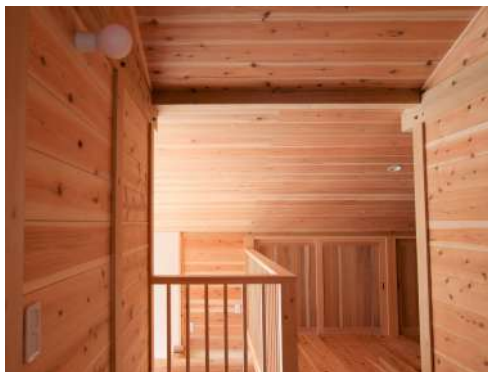
壁仕上げ

外周部の室内壁は大壁仕様、室内の間仕切りは柱や梁が化粧となる真壁仕様を基本仕様としています。仕上げ方は天井同様、板張り・左官仕上げ・土佐和紙など。オール板張りや、部分的に塗りを入れたり、壁はとても自由性があります。

板張り

左官仕上げ

土佐和紙



天井・壁仕上げ

左官仕上げ



漆喰・・・

主原料は石灰石を高温で熱した後に加水して作られた消石灰（水酸化カルシウム）です。その消石灰に水・糊・繊維などを加えた塗り壁仕上げ。消石灰は長い年月をかけて空気中のCO₂を吸収し、徐々に硬化しながら石灰石（炭酸カルシウム）へ戻ります。強度があり水にも強いので、外壁や水回りの内壁に使用することができます。基本的に漆喰は耐久性・殺菌性・消臭性・調湿性・耐火性など機能性が高く、お城や土蔵などに古くから用いられた壁材です。表面は硬質で鏡のように滑らか。

珪藻土・・・

主原料は珪藻（植物プランクトン）の殻の化石です。漆喰のように自ら固まることができないため、固化材を加えて使用します。水に弱いため、内壁として使用します。基本的に珪藻土には消臭性や耐火性があり、特に調湿性は漆喰よりも優れています。



外装床仕上げ

土間コンクリート、モルタル・・・「金鍔仕上げ」又は「刷毛引き仕上げ」が主な仕上げ方です。「金鍔仕上げ」はコテで表面をツルツルに仕上げ、「刷毛引き仕上げ」は箒などで掃いたような刷毛目をつけたザラザラした仕上がりになります。その他、鉄平石やタイルなど、お好みに合わせてお選びいただけます。

かなごて 金鍔仕上げ



刷毛引き仕上げ



タイル



外部・内部塗装

外部塗装には「ウッドロングエコ」という木材を長持ちさせる保護剤を塗布します。原料は天然成分で、最終的に土に還れる安全性を持っています。

内部塗装には「との粉」「蜜蝋ワックス」「エゴマオイル」などを使用します。との粉は粘板岩などの石を成分とした粉で、化粧柱や梁に手油などの汚れ防止のために塗布します。床板には人に優しい成分でできた「蜜蝋ワックス」や「エゴマオイル」を塗布し、木本来の色（濡れ色）に仕上がります。

内装

ウッドロングエコ



との粉



蜜蝋ワックス



設備

住宅設備は各メーカー取扱いが可能です。冷暖房設備としては、薪ストーブやパネルヒーター、FF式ストーブや温水ルームヒーター、エアコンなど、それぞれのメリットデメリットをお伝えしてご提案いたします。給湯にはガス、灯油、薪、太陽熱と気になるものがありましたら打ち合わせでお聞かせください。

計画の中で住む人と施工者の安心・安全を考え、更に環境負荷が小さくなるものを見えない所を含めできる限り厳選して使用しています。

薪ボイラー



パネルヒーター



薪ストーブ



太陽光温水器



建材各種 (クロス・漆喰・畳・断熱材)



石膏ボード

